

不正咬合学特論（山口 徹太郎）

The advanced course for science of malocclusion（Tetsutaro Yamaguchi）

キーワード

① 歯科矯正学
② 不正咬合
③ ゲノム科学
④ 画像診断学
⑤ 矯正装置（デジタル技術、材料学を含む）

関連する学位授与方針
DP（ディプロマポリシー）

①,②,③,④,⑤

関連する教育実施方針
CP（カリキュラムポリシー）

①,②,③,④,⑤,⑥

授業概要

歯科矯正学の基礎的、臨床的知識を理解し、最新の研究について学修する。研究課題について指導教員と共に企画立案し、研究計画に従って研究を実施する。

授業科目の学修目標

歯科矯正学に関する知識を習得し、研究の遂行および成果について発表する。統計学と実験計画法の基本的事項を説明し、応用する。研究に必要な倫理について説明する。

授業計画

- ① 指導教員が統計学と実験計画法の基本的事項を含む研究課題を実施するために必要とする講義、討議を行う。12コマ
山口 徹太郎、高橋 正皓、畠中 玲奈
- ② これらを通して研究指導を行う。18コマ 山口 徹太郎、高橋 正皓、畠中 玲奈

教科書および参考書

海外歯科矯正学専門誌（Journal of Clinical Orthodontics 他）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

大学院教育と同時に、日本矯正歯科学会 認定医育成に準拠したカリキュラムで研修する。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科矯正学に関する知識を習得し、統計学と実験計画法の基本的事項を理解することができる。
- ② 研究倫理を遵守し、研究の遂行および成果を発表することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・成果発表は解析で得られたデータを元にその進捗を含めプレゼンテーション形式で行う。10% × 5回 = 50%
- ・口頭試問は、授業計画で行った知識の理解度を判定する。10% × 5回 = 50%

理想的な達成レベルの目安

不正咬合学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。